



●さわると火傷(やけど)するサンゴ —アナサンゴモドキの仲間—

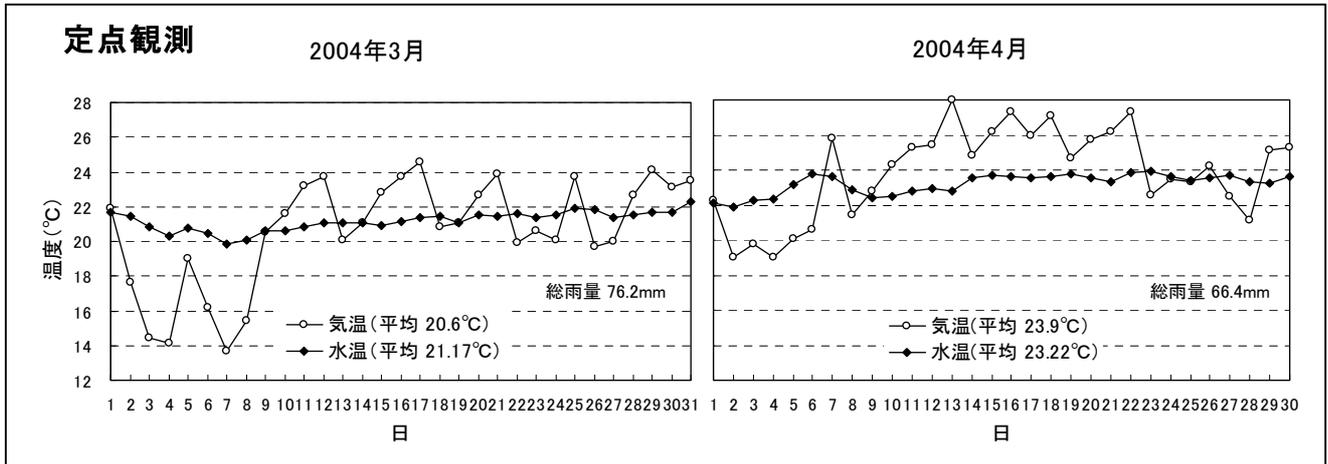
梅雨に入り、蒸し暑い日が続いています。海もだんだん温かくなってきて、水温が 24℃ をこえる日も増えてきました。これから、海で泳ぐ機会も多くなっていくでしょう。そこで今回は、海の中で気をつけなければならない生き物の一つをご紹介します。

アナサンゴモドキの仲間は、枝状のものや岩に張りついている形のものなど、阿嘉島のまわりには、少なくとも 5 種類生息しています。この生物は、ダイビングをする人たちの間では、わりと有名なのですが、それ以外の人、特に内地からやってくる人たちには、ほとんど知られていません。ガンガゼやオニヒトデは体中にトゲがあり、見るからに危険な生物ですが、アナサンゴモドキには鋭いトゲもなく、岩にくっついて動かないので、あまり注意されることがありません。けれども、うっかりさわると電気が走ったような痛みを感じます。その痛みが、火傷に似ているからでしょう、アナサンゴモド

キの仲間は、英語で「ファイヤー・コーラル(火のサンゴ)」と呼ばれています。アナサンゴモドキは、毒のある刺胞をもっていて、さわったときにこれで刺されるのです。アナサンゴモドキに刺されても死んでしまうようなことはありませんが、1~2 週間はさわったところにあとが残りますから、十分に注意して下さい。

アナサンゴモドキは刺胞を持っているので、刺胞動物の仲間になります。ミドリイシなどのイシサンゴ類も同じ刺胞動物ですし、姿もよく似ているので、多くの方は、アナサンゴモドキはイシサンゴ類と近い仲間だと思っている人がいますが、分類学的にはイシサンゴ類はイソギンチャクの仲間(花虫綱)、アナサンゴモドキはヒドラの仲間(ヒドロ虫綱)という比較的離れたグループに属しています。けれども、両方とも体内に藻類(褐虫藻)とかたい骨格をもっていることから、「造礁サンゴ」という、生き方をもとにくられた 1 つのグループに入れられるため、このような誤解がうまれるのです。

それでは、どこか違うのでしょうか。詳しくお話するとたくさん違いがあるのですが、今回は 1 つだけ、“繁殖の仕方”を紹介します。イシサンゴ類は、皆さんも知っているように群体が卵や幼生を産んで増えていきますが、アナサンゴモドキは、まずクラゲを産み出し、そのクラゲのもっている卵から増えていきます。つまり、一生の中でクラゲの時期があるかない



かが、大きな違いなのです。去年の6月にマジャノハマで初めてヒメアナサンゴモドキのクラゲを見ました。とても小さく、傘の直径が0.8



～1.0mmほどのクラゲです。マジャノハマにはヒメアナサンゴモドキの大きな群体がたくさんあり、それがほぼ同じ時刻に一斉にクラゲを産み出したので、海の中はクラゲだらけになり、まるで粉雪の降りしきる中を進んでいるようでした。満月の4日前でインサンゴの産卵調査を行っていた時でしたが、これまでの数年間、産卵調査中にアナサンゴモドキのクラゲを見たことはなく、たまたまその日にクラゲを出したのか、インサンゴと同じように月の満ち欠けと何か関係があるのか、まだわかりませんが、もしかしたら今年も同じ光景こうけいに出会えるかもしれないと期待しています。皆さんも、もしアナサンゴモドキのクラゲの放出を見ることがあったら、ぜひ研究所に知らせて下さい。

●阿嘉島の海より

ゴールデンウィークも終わり、沖縄は梅雨に入ったようです。水不足の座間味村にとって

は夏の観光シーズンまでに少しでも多くの恵みの雨を期待したいところです。

さて、今年もいよいよサンゴの産卵の時期が近づいてきました。産卵に向けてこれから研究所も忙しくなります。ダイビングショップなどにもサンゴの産卵を見たいというお客さんから問い合わせがきていることでしょう。ということで、恒例のサンゴの一斉産卵日の予想ですが、これから6月に向けて海水温が順調に上がっていけば、今のところ6月3日～5日あたりではないかと予想しています。夜の10時半から11時頃にマジャノハマ(阿嘉ビーチ)などに行けばシュノーケリングでも十分見ることができますので、興味のある人は行って下さい。

それから、6月28日から7月2日まで沖縄コンベンションセンターで国際サンゴ礁シンポジウムが開催されます。4年に1回、世界中のサンゴ礁研究者が一同に会して開催されるサンゴ礁の国際学会です。それが今年には沖縄で開かれます。もちろん、阿嘉島臨海研究所も参加しますが、6月30日に開催される公開シンポジウムでは、阿嘉島から照喜名定盛さん(元阿嘉小中学校校長)、金城忠彦さん(座間味村漁協組合長)、垣花薫さん(あか・げるまダイビング協会会長)が慶良間のサンゴ礁について発表することになっています。参加費無料でだれでも入れますので、みなさんも聞きに行ってみてはどうでしょうか。詳しくは研究所までお問い合わせ下さい。